

## はじめに

### 趣旨説明

---

重田康博(宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏副センター長)

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター (CMPS) は、これまで日光市国際交流協会による交流事業を行ってきました。このプログラムは、4年前から始まっておりまして、日光市の持続可能なまちづくりを目的に学生のフィールドワークを主体として進めています。

今年は足尾地区をテーマにして進めることになりました。国際観光開発、国際交流、環境学習という目標をもって、留学生、日光市国際交流協会の皆さんと、50人くらいで、今回11月に2回目のフィールドワーク演習を行いました。具体的には、11月11日の午前中にオリエンテーションを行い、午後に最初の第一回フィールドワークとして、銅山観光を視察し、足尾歴史館に行きました。次の週、11月17日には第2回目のフィールドワークとして、午前中には松木溪谷、古河掛水倶楽部に行きました。午後は、5グループに分かれ、かじか荘、銅山観光文化交流、足尾歴史館、松木溪谷、植樹体験、足尾に緑を育てる会、森びとプロジェクトをそれぞれ訪れ、フィールドワークを行いました。

そして今日のシンポジウムを迎えたわけです。このシンポジウムは、宇都宮大学国際学部多文化公共圏センターと、日光市国際交流協会の主催で行います。足尾には歴史問題や環境問題があり、光と陰の部分があります。まずは足尾の現状、特に歴史や資源を知ってほしいと思います。それを踏まえた上で、どのように活用するのか、PRするか、栃木県内だけでなく日本および世界にPRしてもらおうか、みなさんに考えていただきたいと思っています。

このような趣旨から本日のプログラムは第一部、第二部から構成されています。第一部は、足尾まるごと井戸端会議の山田様から「足尾地区における歴史とまちづくり」についてご講演いただきます。次に国際学部の高橋若菜先生から「足尾銅山鉱毒事件の今日的意義」についてご講演いただきます。第2部は、留学生5グループによるプレゼンテーションがあります。その後、国際学部のアンドリューライマン先生、日光市観光部観光交流課長の佐藤様よりコメントをいただきます。

本日はどうぞよろしく申し上げます。

---